

# 学習評価の在り方について

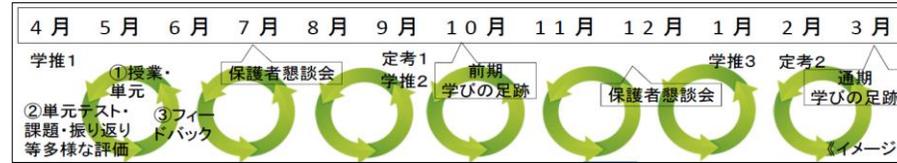
## これまでの学びのサイクル

およそ一か月に一回程度のテストにより、遂行目標（結果（点数）にこだわりを持つ目標）をもって取り組むことができた半面、点数に一喜一憂したり、成績が下がったときに改善方法を考えられにくかったり、考える前に、次のテスト準備に入ったりする面も見られました。

令和2年7月13日の家庭通知より



## 令和2年度の学びのサイクル



各教科の単元では、「問い」を大切に学びを創り、単元テストやレポート・振り返り等の多様な評価を実施し、フィードバックするという小さなサイクルの学びと、学力推移調査年3回、定期考査年2回(9月・2月)という大きなサイクルでの学びを大切にします。



実力テストがなくなり、定期考査が少なくなって「楽になった」と思ったけど、自分で計画を立てて進めなくてはいけないのだね。

自分から学ぶスタイルを友達や先生と一緒に見つけていかないとね。自分の学びを創るんだね。



## 学習評価の基本的な考え方

右の2つは、「学習評価の在り方ハンドブック」(文部科学省)より

- ✓ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ✓ 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ✓ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

次の授業では〇〇を重点的に指導しよう。

〇〇のところはもっと～した方がよいですね。

【教員と生徒が共に納得する学習評価を行うために充実させていくこと】

- ✓ 評価規準を適切に設定し、評価の規準や方法について、教師と生徒及び保護者で共通理解を図るガイダンス的な機能
- ✓ 生徒の自己評価と教員の評価を結び付けるカウンセリング的な機能

考査だけでなく、いつ、何で評価しているのか、はっきりするんだね。しっかり学びたいな。

結果だけでなく、これからの自分の学びに先生と一緒に結び付けていくんだね。



## 本年度見直していく学習評価

言われたからやる、ではなく、自分から学ぶことが大切なんだね。

やりたいこと、やらなければいけないことを考えて、自分の学びを創りたいな！

【考査結果一覧について】

- ✓ 平均点と度数分布の提示をなくします
- ✓ 3カ年の考査を提示します(今後)
  - ・平均点は全体に、順位は希望者に、口頭で伝えます。
  - ・平均点は一つの「秤」にはなりますが、それとの比較のみをもって評価することは妥当性が認められないと考えます。順位も一つの「秤」にはなりますが、80人の中の度数分布は、必要性が認められないと考えます。
  - ・その生徒のがんばりや伸び、強みや弱みにフォーカスします。

【課題や範囲等の提示について】

- ✓ パフォーマンス課題の内容や提出期限を明確にします
- ✓ 単元テストの実施日や定期考査の範囲を早めに知らせます
  - ・パフォーマンス課題や単元テスト・定期考査に向け自分なりにしっかりと取り組めるようになります。

【学力推移調査の活用について】

- ✓ 効果的な活用を研究します

【GMLや総合学習について】

- ✓ 教科の枠にとらわれない学びも生徒とともに評価します
  - ・屋代の「8つの力」を評価指標にしなが、生徒の学びを位置付けたり、自分で学びを創っていきけるよう働きかけたりします。ポートフォリオを生かします。